

よしたけ
吉竹遺跡

所在地 新城市牛倉字吉竹
(北緯35度55分37秒 東経137度30分54秒)
調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線
調査期間 平成21年6月～7月
調査面積 250㎡
担当者 松田 訓・早野浩二・白井克尚



調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

調査の経過 本調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線にかかる事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成21年6月～7月、調査面積は250㎡である。

立地と環境 吉竹遺跡は、豊川中流域右岸の段丘面上に立地し、段丘下には大宮川が流下する。遺跡周囲の標高は、約98～99mである。なお、谷を隔てた高位段丘上には石座神社遺跡が立地する。

調査の概要 今年度の発掘調査は、大宮川に面した西向きの緩斜面を対象とした。調査の結果、弥生時代後期の遺構、大宮川に面した谷地形などを確認した。

弥生時代後期 弥生時代後期の遺構としては、竪穴住居2棟を確認した。竪穴住居209SIは、2008年度調査区においてすでに確認された遺構(047SI)で、今年度の調査区においてその西辺を確認した。これによって竪穴住居の長辺が約4mであることが判明した。209SIからは、弥生時代後期の台付甕、高杯等がややまとまって出土した。203SIは大部分が割割され、その北東隅部分を確認したのみであるが、周辺には弥生時代後期の土器が散在していた。

流 路 大宮川に面した谷地形201NRは、上層は褐色シルト、中層は黒色粘質シルト層、下層は礫層で埋積される。中・上層からは、弥生土器・土師器に加えて、有袋鉄斧1点が出土した。また、最上層からは中世の土師器皿、下層からは縄文時代の磨製石斧が出土した。なお、段丘面上の遺構検出面付近から、縄文時代後期の深鉢も出土した。

ま と め 昨年度と今年度の発掘調査の結果、吉竹遺跡は、大宮川左岸の段丘上の狭小な緩斜面に立地する弥生時代後期～古墳時代前期を主体とする比較的小規模な集落であることが明らかとなった。今後、近隣の石座神社遺跡など、同時期に展開する周辺の遺跡との関係を具体的に考察する必要がある。

(早野浩二)



調査区全景



谷地形201NRの断面